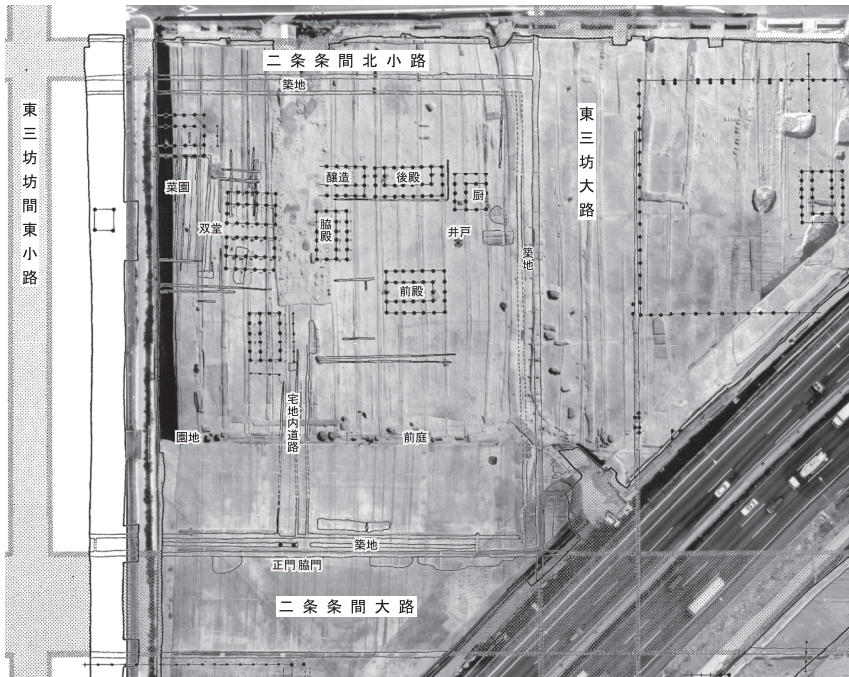


## 1 町域の貴族の館

長岡京跡の調査で、名神高速道路桂川パーキングエリアの建設のため、東西 320 m × 南北 210 m の範囲を調査しました。ここでお話しするのは上がり線（東京方面行き）のパーキングエリアの北西部の調査です。この調査地は、長岡京の呼称では左京二条三坊十五町と東西道路である二条条間北小路と二条条間大路、南北道路である東三坊大路にあたります。

この二条三坊十五町は 1 町の敷地をもつ邸宅であることがわかりました。この宅地は、周囲を築地で囲まれ、南面する二条条間大路には宅地の中央に正門があり、その東に脇門が並んでいます。また、宅地内には、隣接した 2 門に対応した 2 条の南北道路が設けられて



長岡京での貴族の館（長岡京跡左京二条三坊十五町）

います。

1町の宅地内は「田」字形に四分割されて空間利用されています。中心的な建物群は、北東部に配置されており、前殿ぜんでんと後殿こうでんが「ニ」字型に並んでいます。後殿の西に醸造用の甕を保管した建物があり、その前面には脇殿わきでん、後殿の東側には厨くりや・井戸などが造られ、これらの五つの建物は「コ」字型の配置になっています。前殿と後殿の間は公的な空間として利用されたのでしょう。



貴族の館の中心建物（長岡京跡左京二条三坊十五町）

宅地の南東部には建物は全くなく、北東部の建物群の前庭としての空間となっています。西北の地区では5mの間隔で畝溝うねみぞが何本も掘られ、菜園が作られていたと思われます。その東側には南北に軒を接して2棟の建物があります。2棟全体で双堂なるびどうが構成されていたと推定されます。柱穴の中から漆喰しっくい・檜皮ひわだが出土していることから、檜皮を葺き、漆喰で壁を化粧した建物と考えられます。私的な空間として利用されたのでしょう。

西南の区画では北東隅に柵で囲まれた建物が1棟のみで、広い空間が広がります。庭園などの園池の空間でしょうか。

長岡京跡では、数多くの調査が行われていますが、一度にほぼ1町全体を調査した事例は数えるほどしかありません。1町を班給はんきゅうされ、大路に門を開くことができるのは高位・高官に限られます。長岡京遷都時に公卿の地位にいた13人の中から、この館の主を1人に絞り込むのは難しいのですが、双堂が東大寺法華堂、佐伯院金堂と類似することなどから、当時の「造長岡宮使」であったさえきのいまえみし佐伯今毛人がその候補に挙げられています。（戸原和人）